

B-5 次の記述は、受信機の選択度の測定について述べたものである。□内に入れるべき字句を下の番号から選べ。なお、同じ記号の□内には、同じ字句が入るものとする。

- (1) 受信機の実効選択度は、測定に使用する ア の台数や測定の目的により、1信号選択度と2信号選択度に大別できる。
- (2) 2信号選択度は イ とも言い、強い妨害波が存在 ウ 場合の選択度であり、その測定には2台の ア を信号源として用いる。代表的な2信号選択度には、感度抑圧効果、エ 変調及び相互変調があり、これらは、希望波への影響を一定値以内にするために許容される オ のレベルを示すものである。

- 1 妨害波 2 混 3 実効選択度 4 しない 5 パルス発生器
6 熱雑音 7 過 8 周波数選択度 9 する 10 標準信号発生器(SG)

1 信号選択度	標準信号発生器 近隣周波数選択度 影射周波数選択度 スプリアレスポンス	信号の不要必要を 判断する
2 信号選択度 (実効選択度)	混変調特性 相互変調特性 感度抑圧特性	強い妨害波 許容範囲

ア 10 イ 3 ウ 9 エ 2 オ 1